

インクル

NO.5 令和6年1月23日(木)発行



発行 北海道七飯養護学校
七飯町立七飯中学校

今年の年明けは雪も少なく、穏やかな新年を迎えることができました。そんな中、七飯中学校は15日から、七飯養護学校は20日から3学期が始まり、子どもたちの元気な声が校内に戻ってきました。どの子にとっても、1年のまとめとしての充実した3学期になることを願っています。

さて、本モデル事業の取組ですが、今号では「令和6年度成果発表会」の様子についてお知らせいたします。

～令和6年度成果発表会～

令和6年度の本モデル事業のメインとなる取組の「第1回合同校内研修」や「交流及び共同学習」が終了しましたので、1月16日(木)に七飯養護学校体育館を会場に「令和6年度成果発表会」を行いました。以前に御案内したように、成果発表会は以下のような内容で行われました。(以下、敬称略)

1 開会挨拶 七飯養護学校長

北嶋校長より、道内外から多くの参加を頂いたことへの感謝と特別支援教育の置かれている現状、本事業へ取り組むことの意義、今年度の成果や今後への期待等について話されました。



2 令和6年度の取組

説明1 事業概要(事業の目的や年間計画、苦労話など)

カリキュラム・マネージャー 佐藤 耕一

本モデル事業立上げの背景や事業の目的、今年度の事業計画、取組状況、課題、反省点、次年度以降の事業計画、展望等について説明がありました。

説明2 合同校内研修概要(当日の様子や参加者の感想など)

七飯中学校特別支援教育CO 佐々木 甲二

両校の先生方100人近くが一堂に会し、8月28日に行われた「第1回合同校内研修」について報告されました。教員の事前アンケートから読み取れることやグループ協議の様子、多くの肯定的感想があったこと等について説明がありました。



説明3 交流及び共同学習概要(苦労話や生徒の感想、動画視聴)

七飯養護学校中学部主事 坂本 史織

七飯中学校生徒指導主事 越智 啓介

11月26日に行われたオンラインによる交流の様子や12月3日と13日に行われた対面による交流活動について報告されました。坂本先生からは、七飯養護学校の生徒の特性や日常の様子、七飯養護学校1年団の授業に対するきめ細かな配慮、準備の様子、今後の交流へ期待すること、七飯中学校の生徒と先生の素敵な面等が紹介されました。越智先生からは、交流を通して多様性を尊重する心を育むことや交流及び共同学習の教育課程への適切な位置付け、生徒の主体性を重視した授業への取組、交流活動における生徒の感想から読み取れる心情の変化等について紹介されました。



その後、2回の交流活動を10分間に編集した動画が上映されました。それぞれの活動を通して、生徒同士の関わりやお互いの距離感が徐々に縮まっていく様子が良く分かる映像で、参加者の皆さんも微笑んだり、頷いたりしながら視聴していました。

3 グループ協議

説明終了後に、会場参加者の皆さんで本モデル事業の取組等についてグループ協議をしました。4人でグループを作り、忌憚のない意見や考え方を交流しました。10分ほどの短時間でしたが、どのグループも活発に意見交流がなされていました。また、一つのグループの協議の様子をリモート参加している皆さんに配信し、協議の内容や場の雰囲気を見ていただきました。



4 講評 北海道教育庁学校教育局特別支援教育課特別支援指導係主任指導主事 高石 純

本事業の推進に御指導を頂いている本庁の高石指導主事より、本日の成果発表会に対し、以下のような御講評を頂きました。

◇交流及び共同学習を充実させ、新たな学習の展開へとつなげていくためには、両校の垣根をなくし、互いの先生や生徒のことを知る教員連携の充実が重要である。

◇今年度の取組の成果を基盤とし、今後は共同学習の側面を一層充実し、新たに開発していく取組と従来の教育活動を改善していく取組の両面から、交流及び共同学習を進めていくことが大事である。

◇七飯町の特徴として、徒歩圏内に各種教育機関や福祉・行政機関がある。そのような環境の下、様々な方が地域の教育に関心を持ち、関わっていることを生かしながら、両校の取組がさらに地域の小学校や高校にも拡大していくことを期待している。



5 閉会の挨拶 七飯中学校長

細川校長より、本モデル事業に取り組むに当たって不安はあったが、事業を進めていくうちに不安感から期待感、さらに成果のある事業になるというように考えが変化したことや交流のときの生徒の様子から、この事業を通して、卒業後も地域の一員としてお互いに良い関係を築いてくれるようになると思ったこと、今年度の課題を踏まえ、次年度も新たなことにチャレンジしていくことについて話されました。



今年度の成果発表会には会場参加、リモート参加含め81名と、こちらで想定した以上の方々に参加いただきました。参加者の主な内訳としましては、会場参加は42名で、渡島教育局、鹿部町・七飯町教育委員会、渡島・檜山管内の小中学校や特別支援学校、福祉関係の職員、七飯養護学校運営協議会委員、保護者や地域の皆様に参加していただきました。また、リモートの参加者は39名で、文部科学省、北海道教育委員会、宮崎県、福井県、群馬県、横浜市、道内各地の皆様に御参加いただきました。


おかげをもちまして、本モデル事業初年度の成果発表会を無事に終えることができました。御協力に心より感謝申し上げます。なお、御参加いただいた皆様から多くの感想や意見が寄せられましたので、御紹介いたします。

< 感想 >

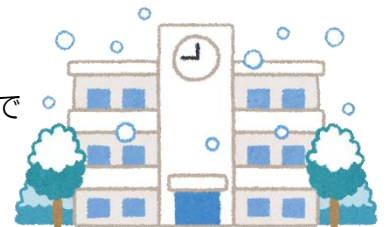
- 交流学习を丁寧に作り上げた過程がよく分かりました。生徒の交流及び共同学習の前に、教員の交流及び共同学習が重要であると理解しました。
- 動画を見せていただき、子どもたちや先生方の表情、言動にたくさんのヒントが隠れていたように思います。

貴重な発表をしていただき、ありがとうございました。



- 両校の先生方が何度も打合せを重ねた成果が、生徒たちの活動に現れたと思います。更により良い活動になっていくと期待しています。
- 共生社会に向けた取組として大変有意義であったと思います。関わり合う場を重ねることで、分かり合っていく姿が印象的でした。少しずつでもより良い関係を築ける社会づくりにつなげていける取組を進めていければと思います。ありがとうございました。
- 初めての事業で、大変なことも多かったかと思いますが、それぞれの発表、そして、最後の動画から両校の生徒の皆さんの気持ちや行動の変化が、とてもよく分かりました。たくさん学ばせていただきました。
- インクルーシブ教育の推進には教職員の力も大きく影響すると思いました。協議の中、保護者の方がお話しされていましたが、担当する教員により子どもへの対応が変わる、という言葉は特別支援教育が推進される中でも変わらない課題だと思っています。理念は理解されていても、実際に障がいのある子どもたち若しくは大人たちと接する姿に心が苦しくなる場面はまだあると思います。今回、特別支援学校、通常の中学校、 両校種の教職員がこのような交流及び共同学習の推進を体験したことにより、今後の異動先でも素敵な交流及び共同学習となるよう声を挙げられるのではないかと思いますし、私自身是非、協力していきたいと思います。

- 初年度の取組として上手く展開できていたと思う。第一段階で北嶋校長先生が七中生にどんな話をしたのかを生で聞きたかった。その話が七中生の心を動かしたのは、間違いないと思う。七中生の気遣いも素晴らしかった。自然にできていたように見えた。その気遣いは支援することとはまた違ったように感じた。七養生も失敗しながらも学んでいた（楽しんでいた）。そこには、お互いの学びが確かに存在した。この先、どう深めていくかはとても難しいと思うが、失敗を恐れずに取り組んでほしい。生徒たちも失敗しながらそれを乗り越えて成長していくはずなので。
- 御尽力された両校の先生方、本当にお疲れ様でした。生徒たちの「気付き」が一番の成果なのかな、と感じました。七飯中学校の「教育課程への位置付け」が気になりました。高校でも道徳教育をやることはなっていますが、「道徳」という授業はないので難しい問題だなと感じました。
- 100人を超える七飯中生と13人の七養生が全体で関わり合っていて、先生方を含めた多くの人の意識を改めるきっかけとなる取組ですばらしいと思いました。動画を拝見して、交流の1回目と2回目で同じ活動をしたことで、子ども同士の関わりの質が明らかに良くなっている様子がよく分かりました。
- 今回の文科省モデル事業に取り組むに当たり、「教職員の理解が肝要」という点で非常に深く共感しました。そういう意味で、連携協力校の教職員を対象とした合同研修会は画期的な取組と感じ、群馬県でも是非取り組みたいと思いました。勉強になりました。ありがとうございました。
- 動画を見せていただいた感想です。特別支援学校の生徒には、どうしても先生が近くにいってしまうがちですが、2回目の交流及び共同学習では生徒同士でやり取りする姿が見られて良かったです。インクルーシブな学習環境を整えていくには、いかに大人がいない環境を作るかが肝だと考えています。
- 両校の先生方の創意工夫で両校の生徒さんがイキイキと交流されていたのが印象的です。インクルーシブの第一歩なんだと感じました。
- 動画を通して、子どもたちの交流の姿を見る事ができ、また、中学校と養護学校の職員の発表を聞く事もできて良かったです。
- 七飯中学校の発表を聞いて、生徒の感想に感激した。
- 七飯養護の生徒と七飯中の生徒同士が、交流及び共同学習を通して、同じ地域で過ごす同世代の仲間としての意識が芽生えているように感じました。
- 子どもたちが自然に交流を深めていく様子がとても良かったです。



- 両校の先生たちの工夫と努力、そして七飯中学校の生徒たちのもつ優しさと個を尊重する姿勢がとてもすばらしいと思いました。インクルーシブという言葉が世の中に出てきた頃は、「形式的な平等、ただ同じ場所にいることに意味はあるのだろうか」と疑問に感じたが、今回のような「楽しさ 優しさ 経験」を工夫を凝らして双方が共有するのはとても意味があることだと考えが変わりました。障がい児の保護者として、子どもたちの楽しそうな表情がこの取組の答えだと思っています。全てを同じようにはなく、本来の教育システムの良いところにこのような取組を加えることで、日本の教育が進化し、より良いものになる未来を感じさせて頂き、ありがたい機会でした。
- 今回の成果が、是非多くの皆さんに共有されることを願います。先生方のお話もとても分かりやすかったことに加えて、実際の交流の様子を動画で見られたことが良かったです。
- 協議を通して思ったことは、どんな形であれ、まずは全ての子どもたちが場を同じくして出会う、ということが大切だと思いました。それも、できるだけ早い段階で実現すれば、お互いの存在が当たり前である社会がいつの日か…と希望をもちました。そのために、まずは教育でできることを始めながら、教育だけの範囲に留まらない活動も必要だと感じました。
- インクルーシブな社会の構築に向けた先進的な取組として、学校ができる教育システムとして、教育課程への位置付けや授業づくりの具体を学ばせていただきました。
- 両校の先生方の共有が図られていたことが、少ない交流機会ではありましたが、子どもたちの変化を見取ることができ、とても良かったと思います。
- 交流及び共同学習の良さ（養護学校、七飯中の生徒の感想や教職員の感想から）を改めて感じました。「目の前の困難なことに対して、自分で考える時間を与え、教師は待つ姿勢でサポートする」という七飯養護学校の先生の資料を読んで、「待つ」ことも支援の一つだという認識をもちました。自分自身、今後気を付けたいと思いました。また、「個別最適な学び」にもつながることだと感じました。



< 意見 >

- 合同研修、良い試みだなあと感じました。現在、私が担任している特別支援学級と特別支援学校は、交流及び共同学習を行っています。教員間での共通理解や実態把握の必要性を重々感じています。
- 来年度、今の学年同士の実践を深めると、さらに地域の他校種に広めていくというのは、二足の草鞋を履くのと同様であると考えます。両輪がしっかりと回るように、コーディネーターを増員すべきだと考えます。
- 国連は「障害のある子どもの分離された特別教育が持続している」と指摘しています。この指摘どおり日本で特別支援教育と普通教育を同じ場でやるのであれば、国が予算をきちんと付けて、必要な設備や人員などを整備すべきだと思います。
- 今回は全グループで同じ活動をしていましたが、グループごとに相互理解が進んできているので、今後はグループの七飯中生や七養生の興味や特性に合わせて、グループごとに活動を計画するのもいいと思いました。
- 次年度以降、既存の交流及び共同学習の形から、どのように柔軟で新しい形に発展できるのか、といった視点で活動を考えていくと、より良い取組になるのではないかと思います。活動の目的やねらいが生徒に具体的に伝わったり、活動を通して目指す生徒の具体的な姿を共有できたりすることで、より良い取組になるのではないかと思います。



- 是非、今回の取組をより深く掘り下げて、全国に発信して行ってほしいです。また、協力してくれる生徒や保護者、支援者の方もたくさんいると思います。これからの子どもたちの未来が希望をもてるものになりますよう願っています。

- 協議の各グループで話し合われた内容を、是非お聞きしたかったです。今回参加されている皆さんは教育関係だけではなく、地域も様々だったので、お話の内容が今後の取組にきっとプラスになると思いました。
- 生徒や教員の変容は見事に導かれていたかと感じます。それらを評価していくシステムが発展していくといいと思います。

(文責 カリキュラムマネージャー 佐藤 耕一)